

議 事 録

会議の名称	第12回 学校規模学校配置適正化検討委員会
開催日時	平成23年8月26日(金) 13時30分～
開催場所	小川総合支所 大会議室
出席者	<p>【出席委員】</p> <p>水本徳明 野村武勝 中村強 中川稔 小林義治 矢口忠衛 福田智彦 西村浩一 鈴木美樹 中島浄 沼田マサ 竹内昌信</p> <p>【欠席委員】</p> <p>山口良元 星野広幸 小仁所浩 立原幸子 邊見亜津子 飯島利武</p> <p>【教育委員】</p> <p>中村三喜 鶴町庄二 沼田新 澤島照子 沼田和美</p> <p>【事務局】</p> <p>小松修也 戸塚俊宏 成井修也 海老澤光志 佐々木浩 菅谷清美 吉田江梨子</p>
協議案件	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小美玉市の基本方針案の検討協議 ・ その他
会議資料	別紙 (会議次第、 他)
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開 (傍聴者 1 人)

協議の内容

【協議】

(1) 小美玉市の基本方針案の検討協議

委員長 今日の内容は構成案についてです。ではその前に、アンケート結果の分析について説明します。

【資料1を使いながらの説明】

委員長 アンケートでは、「学級や学校の規模でどのくらいのものか」という質問をした。一方、「子どもたちにどのような力を身につけてほしいか、学校でどのような活動をしてほしいか」という質問をした。その2つの関連を知りたくてこの分析をした。つまり大規模を望んでいる人が子どもたちにどのような力を身につけてほしいと思っているか、どのような活動をしてほしいか、また、小規模を望んでいる人はどうなのかという、2つの関係を分析してみた。また、このアンケートでは、「どうして大(小)規模がいいとお考えですか」という質問の仕方ではなく、「大(小)規模がいいとお考えの方は、子どもにどのような力を身につけてほしいですか、学校でどのような活動をしてほしいとお考えですか」というような質問の仕方にした。

P4表1 (1)～(13)までの力をどの程度身につけてほしいですかという質問への回答の結果です。横の列を見てください。小学校学級規模希望というのは、小学校では、1学級あたり何人が望ましいかということへの回答です。

小学校学年規模希望というのは、小学校では、1学年あたり何クラスが望ましいかということへの回答。

小学校規模対策希望というのは、小学校の規模がどのくらい小さくなったら対策が必要かということへの回答。

中学校についても同じ意味である。AやBの意味は、

Aは、どちらかという大規模の学級や学校を望む人がそう思うという人の割合が大きい。

Bは、どちらかという小規模の学級や学校を望む人がそう思うという人の割合が大きい。

【具体的に説明】

小学校学級規模希望の欄を上から下に見ていきます。まず、最初に出てくるAの欄の意味は、1学級あたり21～30人という大規模学級を望む小学校の先生は、将来レベルの高い高校や大学に進学できる学力を身につけてほしいと考える傾向にある、ということである。次の(8)の意味は、1学級20人以下という小規模学級を望む保護者は、

科学的に物事をとらえる力を身につけてほしいと考える傾向にある、ということである。以上のように表を見ていただきたい。

このように見ていくと、「規模」と「どのような力を身につけてほしいか」ということはあまり関係がないということが言える。

P5表2 今度は、学校にどのような取り組みをしてほしいかという質問への回答の結果です。

小学校学級規模希望の欄を見ると、Bがたくさん出てくる。これは、小規模を希望している保護者や市民は学校で様々な取り組みをしてほしいと思っている、と分析することができる。

P6表3 学校の望ましい在り方を質問したものである。

例えば、(2)では、小規模を希望する保護者の多くが選択した。規模と快適さにどのような関係があるかは分からないが、子どもたちの学習環境を良くしたいという意識が強いのかもかもしれない。

(4)は分かりやすいと思う。

総じて、学級規模に保護者の関心が高いことが分かる。それに学校での活動や学校の在り方が関わっている。

この分析は、今後の検討材料として活用いただければと思う。規模と関わって、どういうことが望まれているかを読み取ることができる。何か質問や要望等はあるか。

【資料2を使いながらの説明】

続いて構成案についてです。前回意見を出していただいたものを付け加えて作成し直した。少し構成を変えたので説明します。

で囲んであるものは前回みなさんにボードに書いていただいたものです。

1の(1)(2)はまだできていないが、(1)諮問事項とその背景ということについては、教育委員会のほうで考えてほしい。(2)では検討の経緯だけを書こうと思ったが、この委員会が単に数合わせだけを問題にしてきたのではなく、子どもたちのためにより良い学校をつくるという姿勢で検討してきたということを書くべきであろうと思ったので付け加えた。

2(1)だが、前回の構成案では「学校教育のビジョンと目標」としていたが、それを書き直した。(3)は前回なかった項目である。(随時、項目の読み上げ)

アンケートだけを頼りに構成案を作成するわけではない。委員さんのご意見や学校訪問をして得た考え等も含めて作成していくわけだが、アンケートから小美玉市の課題が見えてくると思ったので1つの材料として挙げた。

修正を加えた構成案について様々なご意見をいただきたいが、何かあるか。

委員 前回「学校教育のビジョン」となっていた所が「学校のビジョン」という言葉になっているが違いはあるのか。

委員長 「学校教育」とせずに「学校」とした理由としては、施設設備の問題や地域との関係性を考えた時に、必ずしも「教育」という狭い範囲に納まりきらないことが出てくると思い、「学校」という表現にした。

委員長 このアンケートでは教員の意見もまとめているが、校長先生方はどのように受けとめているか。

委員 P2（3）だが、アンケートの教職員の意見と校長達の意見は一緒だと思った。やはりここに書かれていることが大切である。

委員 私も P2（3）について、その通りの内容だと思う。アンケート結果から出された思考力や判断力等、現在求められている力を身につけさせることは、学校教育の全体の課題としても挙げられている。

委員 「生きる力（知・徳・体）」や「確かな学力」などという言葉で構成案がまとめられている（P1）が、このような言葉を使っていくのか。

委員長 「生きる力」や「確かな学力」というような教育界でのみ通じるような言葉を使って基本方針を書いてよいのかという意見が出たが他のみなさんはどう思うか。アンケートでは、そのような言葉は使っていないが。

委員 生きる力とは、どのような意味を含んでいるのか。

委員 生きる力とは知徳体のことだが、「知」として確かな学力、「徳」として豊かな心や人間性、「体」として健康や体力、この3つを含めて生きる力と言っており、教育の理念となっている。

委員長 先生方には分かるが、一般的には理解しにくいかもしれない。一般的にも分かるように説明を入れたほうが良いかもしれない。続いて、P3の3からについてご意見いただきたい。

委員 私たちは現場にいるわけではないので、1学級何人がいいとか具体的な数は言えない。現場の状況、子どもたちの様子をよく分かっている先生に決めてもらうのがいいのではないかと。我々は現場の先生方の意見に賛同すべきではないか。

委員 P1に「しっかりと知識や思考力を基盤に、人間としての生き方を考える力を身に付け、他者とかかわりながら社会を形成する人間を育成することが求められている」とあるが、これは自己肯定感がある上で成し遂げられると思う。現在、玉里東小学校の子どもたちは自己肯定感があると思うが、大きな学校になった場合に子どもたちの自己肯定感を育んでいけるのか。私は、自己肯定感を育める数（規模）とい

委員長	<p>う部分は譲れない。具体的な数は言えないが、それを考慮した数にしてほしい。</p> <p>自分は意味のある存在であるという気持ちを育める学校の在り方がとても大事であるというご発言であった。規模が小さいからそれを持つことができている可能性もあるという趣旨であった。それと学校規模をどのように関わらせていくのかということは考えていかなければならない。</p>
委員	<p>現在は学級の人数を減らす傾向にある。1学級に30人以下が理想かなという思いがある。学力面でいうと、1人の教師に子どもが10人前後だと基礎的な力は確実に身につけさせられると思う。ただ、コミュニケーション能力等、総合的に考えると20人前後かなと思う。理想や対策など様々な面を考慮するとはっきりとした数を出すのは難しいが、20人前後がいいのではないか。</p>
委員	<p>現在、私の学校では、教師2人体制で40人近い子どもたちを見ているが、落ち着かない様子がある。一方で、子どもを20人ずつに分けて2クラスの体制にすると教師の数は変わらないのに、落ち着く。なので、理想は1学級20人前後だと思う。また、現在、障害（自閉や多動等）を抱えている子どもが多い。様々な子どもがいるので、なおさら1クラスあたりは少人数が良い。少ない人数だと社会性が育たないという意見があるが、玉里東小の子どもたちの自然教室での様子を見ていると決してそんなことはないと思う。大人数の中でも積極的に活動していた。そのような様子を考えると、「これだけに人数が減ったから統合しなければならない」ということはないのかもしれない。</p>
委員	<p>様々な子どもがいて、日々担任は苦勞している。1人1人へのきめ細やかな指導が求められているので、さらに大変である。私の学校の担任に聞いたところ、1学級20人くらいが良いという回答であった。子どもの数を小学校と中学校で同じにするのではなく、子どもの発達段階を考慮した数をそれぞれに決めるべきではないか。手のかかる小学校のほうが1学級あたり20～25人、中学校では30～35人にするとか。</p>
委員	<p>数合わせだけではダメではないか。例えば、ここで決まった数に満たない子どもしかいない学校はどうするのか。人数が少ない地域に、行政で住宅地をつくって一時的に子どもの数を増やすという方法をとるとかスクールバスを出すなどして通学の幅を広げる等をやっていないとだめなのではないか。また、ここで決めた数で問題が起きた時の対応はどのようにするのか。現場に合わせた数というのを決めるべき。人数が少なくてもやっつけていける学校に無理やりに人数を増やすというのは強引ではないか。</p>

委員	ということになれば、学区を大きくして自由に学校を選べるような形になれば、人数は決めやすいと思う。幅広く区域を捉えれば、統合という話にはならず、もっと話が進みやすいのではないか。
委員	基準が必要になる。この委員会は理想でもその基準となる数を決める委員会ではなかったか。実際に統合が決まった時には、地域住民に丁寧に説明をすることが必要になるから、その時に具体的な数は調整すればいいのではないか。どの学校に通ってもよしとすると、競争になって弊害が出てくる。この委員会の答申としては、今まで我々が勉強してきた範囲での理想の数でいいのではないか。
委員	教育委員会では各地域の将来的な子どもの数を把握しているのだから、たたき台のようなものを出してもらわないとこの場で数をどうしようという話はできないのではないか。
教育長	この委員会として1つの方向性を示していただきたい。学校や地域にとっての理想ではなくて、子どもたちにとっての理想を基本にして、数を出していきたい。この委員会では数を決める、議会でそれを承認してもらおう、執行部はそれに基づいてアクションを起こしていくという役割がある。そのため、ここではある程度の基準を出してもらう必要がある。この委員会で方向が決まれば、執行部が具体的に動くことができる。
委員長	私としても区域や統廃合の基本的な考え方や目安を出してもらいたい。子どもにとって最適な規模や配置の目安を作りたい。目安をつかった上で、次に具体的に動いていくためにはどうするかということはまた改めて考えていくことだと思う。
委員	アンケートで得られたおおよその目安（規模や人数）は、大方みんなの意見と変わらないだろう。親の立場から言うと、子どもたちがどのような環境で育つのかということが第一だが、地域のことや市のこともきちんと考えてアンケートに答えていると思う。その結果がこれだと思うので、このアンケート結果を支持したい。
委員	母親たちの話を聞くと、学区の端だと隣の学区の学校に通った方が近いという意見があるので、学区は弾力的に決めてほしい。
委員	学区を変えるということについては、変えた時にどのような混乱が起こるのか想像がつかない。地域のコミュニティーも変わってしまうだろう。学区はそう簡単には変えられないのではないか。
委員	言葉の問題を言うと、対等合併か吸収合併かという問題もある。ただ、学区の変更ということになれば、それほど問題ないのではないか。
委員	学区を決めておくのは基本ではないか。
委員	現段階で、学校で何か問題があるという話は聞いていない。では、この会は何が目的なのか。国の方針もあるし、市の財政面等も考えた上

で統合した方がよいのではないかということから出てきた話だと私は思う。しかし、「この学校はこういう問題がある。だから変えたほうが良い。」というようなことが出てこないで議論が進まないのではないか。

委員長

この委員会は教育委員会からの諮問により発足した。教育委員会が諮問を出した背景には、将来の教育を考えると現状のままでは問題が出てくるであろうという考えからだと思う。現状でこのような問題があるという話と将来の小美玉市の教育をどう組み替えていくかという議論は、私としては次元の違う問題ではないかと思う。

委員

これからも学校建設をしていくと思うが、跡地の問題も含めて議論すべきではないか。

委員

統廃合をするという前提で話を進めていかないとだめなのではないか。統廃合をせざるを得ない状況にあるということが前提でないと。小さい学校、大きい学校共にメリット・デメリットはあるのだから、それを全て受け入れていると話が進まなくなる。統廃合にあたっては、涙をのまなくてはならない地域も出てくると思うが、それは理解してもらって小美玉市の教育の理想を実現するという大きな考えで捉えてもらわなければならないのではないか。

委員

視察に行った時のスクールバスの件では、地域のまとまりを考えた時に、小学生は歩いて帰って、寄り道して地域の人たちとふれあって大きくなってほしいと思った。小中連携は絶対に必要。国田のように1つにまとめるかはまた別の次元。合併を望む時期が今後出てくると思うので、この委員会では基準を決めることが必要。

委員

私も合併が前提だと思っていたが、この委員会が始まってすぐに、「そうではない。将来の子どもたちの教育環境をどのように市がつくっていくかということが目標で、結果として統廃合ということもあるかもしれない。でもそこにいくまでの間に理想を探そうよ。」ということだった。理想を求めるのに、現状に問題がないという考え方では理想は出てこない。どの学校にも必ずメリットデメリットはある。それを踏まえて判断する、というのが私たちの役目だと思う。よって統廃合が前提というのは違和感がある。問題がないからこのままでいこうということにも当然違和感がある。視点は子どもたちの将来はどうかということだと思う。私たち大人が道筋を与えていこうということなのだと思う。そこが揺らいでは今のような話になってしまう。

教育長

問題点をこの場でストレートに出すのは、特定の所にしわ寄せがきてしまうという考え方で、アンケートなどの方法で全体としてこのような問題があるということをはっきりと明らかにしてきた。一番の問題点は子どもが減ってきていることで、だから適正化を進める、あるいは、施設の

安全を考えた時に、学校の老朽化や耐震化が求められているが行政の投資効果としてこれでいいのか、あるいは地域間のバランスを保つということ等々を諮問で問題提起として挙げた。だから、「問題がない」ということはないということを申し上げたかった。

委員長

私としては、より良いものにしていくという発想にしたい。自分たちで学校をつくれるのならどのような学校をつくりたいのか。より良いものとしてスタートする機会をこの委員会に与えられているというふうに考えていただきたい。

15 : 45 終了